

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	東京海洋大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	トウキョウカイヨウダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	東京都
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	海洋生物資源実務実習
	学部・研究科等名	海洋科学部海洋生物資源学科
	担当教職員名・役職	佐野 元彦・教授
要素①	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	17
	受入企業等数	5
	受入企業等名	株式会社田中三次郎商店、東北区水産研究所、中央水産研究所、水産工学研究所、水産大学校
	インターンシップの分類	5.他県をまたぐ広域インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ 10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本実習(海洋生物資源学におけるインターンシップ)は、普遍性の高い社会人になるためのトレーニングを目標とした学外での実習を主としたプログラムである。研究所や地域などでの活動(海洋生物資源の試験研究・調査など)などについて、約5日間にわたり実務を体験する。
	要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。
2-2.該当するインターンシップの内容		3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している
2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)		
2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)		3年次
2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)		1単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)		3年次学生を対象に、本実習(海洋生物資源学におけるインターンシップ)は、普遍性の高い社会人になるためのトレーニングを目標とした学外での実習を主としたプログラムである。研究所や地域などでの活動(海洋生物資源の試験研究・調査など)などについて、約5日間にわたり実務を体験する。本科目では、海洋生物資源の調査研究から産業に至る過程について理解できるようになること、試験研究機関や業界・官庁における現状および展望を解説できるようにすることを目標としている。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	受け入れ機関担当者からメールおよび相手機関の報告書による連絡を受けるとともに、学生がインターンシップ中に作成する日誌および報告書も用いながら、事前に学生から報告を受け、受け入れ機関との協議・打ち合わせを行っている。

	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前学習では、インターンシップの趣旨や目的の理解及び社会活動の一翼を担うためのガイダンスを数回行っている。履修者は、受け入れ機関実施担当者から実施する研修内容や事前準備などについて連絡を受け、それを元に説明会を開催しており、履修者は、自分のやりたい研修内容を選択し、その後、先方受け入れ担当者との事前 連絡・訪問前の下調べを行なうこととしている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	研修後はレポート・ノートの提出を求め、相手機関において報告会で実習の内容や学んだことについてプレゼンテーションを原則1回行っている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	教員がインターンシップ中に学生とメールで連絡を取り、必要な指導を行っている。次年度の実習における教育効果がより発揮されるよう、受け入れ機関実施担当者からメールおよび相手機関の報告書による連絡を受けるとともに、学生がインターンシップ中に作成する日誌および報告書も用いながら、事前に学生から報告を受け、受け入れ機関との協議・打ち合わせを行っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	到達度については、先方の指導者からの出席状況、指導内容、理解度などの指導報告書を受けるとともに、履修者の研修ノート・レポートを見て、良好以上である場合を合格としている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実習期間5日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	研究所や地域などでの活動(海洋生物資源の試験研究・調査など)などについて、約5日間にわたり実務を体験している。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	先方からは研修報告書を受け取り、本学窓口担当者が事前説明や事後の研修内容の聞き取り、研修前の受け入れ機関実施担当者や履修者の連絡などを行っている。また、窓口担当と先方とで、研修内容について協議を行なうとともに、研修終了後はどのような研修態度であったか、また、より効果的な実習実施に向け次年度での内容や実施時期なども含めて聞き取っている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://syllabus.s.kaiyodai.ac.jp/ (海洋生物資源実務実習)
問い合わせ先	大学等名	東京海洋大学
	担当部署名	教務課教務係
	担当者役職名	主任
	担当者氏名	花島
	電話番号	03-5463-4245
	メールアドレス	k-kyomu1@o.kaiyodai.ac.jp